

MONTHLY

かわせみ通信

1月号

2026年1月

Vol.197

発行所



株式会社 東海テクノ

ECOLOGY & SCIENCE

本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号(〒510-0023)

TEL.059-332-5122 ㈹ https://www.tokai-techno.co.jp

見落とされがちな“環境法令”の壁～知らなかつては済まされない時代～

企業活動において「環境法令を守るのは当然」とされる一方で、その実行は想像以上に難しい。最大の理由は、法令の数と構造の複雑さにある。例えば、化学物質の取り扱いや廃棄物処理に関する規制は、国レベルの基本法だけでなく、県や市町村ごとに異なる条例が並列して存在する。どの法令が自社に適用されるのかを見極めるには、高い専門性と継続的な情報収集が欠かせない。

さらに厄介なのが、法改正や通知の頻度だ。年に数回のペースで改正される法令も少なくなく、それに伴う届出の様式変更や、新たな適用範囲の追加が発生する。これらは新聞に載るような大きな話題ではなく、環境省や自治体のWebページ上でひっそりと告知されることが多い。そのため、現場任せの体制では、情報が届かないリスクが常に付きまとつ。

また、自社の事業にどの法令がどう関係してくるかを判断する作業も一筋縄で

はいかない。たとえば同じ業種であっても、工場の規模や使用薬品の種類が異なれば適用条文が変わることもある。既存の知識や経験則だけに頼ると、うっかり“対象外と思っていた”法令を見落とすことになりかねない。

その上、環境管理は一度整備すれば終わりではなく、定期的な点検と見直しが求められる分野だ。担当者の異動や退職によって知識が継承されなければ、数年後に「誰も法令対応の全体像を把握してい



なかつた」という事態も起こり得る。こうした属人化のリスクを防ぎ、継続的な対応力を組織として維持するためには、仕組みづくりが不可欠だろう。

これらの課題は、外から見えにくく、経営層の関心を引きにくい。しかし、取引先からの環境監査や、行政による立入調査といった“外圧”がかかったとき、準備の有無が明確な差として現れる。さらに今後は、環境関連の情報開示やサプライチェーン全体での順守確認といった要請が一層強まることが予想される。今や環境法令対応は、CSRやESGという言葉の内実を問われる場面でもある。

だからこそ、自社の体制が継続的に機能しているかを、確実に、そして定期的に問い合わせ直す必要があるだろう。加えて、情報の網羅性や対応状況の見える化、担当者間の知識継承を支えるツールやサービスの活用も、選択肢として視野に入れる時期に来ているのではないだろうか。

教えて!
カワセミ先生



冬の現場の隠れた指標? 「WCI」ってなに?

夏場の「WBGT（暑さ指数）」に対し、冬場の評価指標「WCI（風力冷却指数）」については、まだ馴染みが薄いかもしれません。WCIは、気温と風速から人が体感する寒さ（体感温度）を評価する指標だよ。吹きさらしの場所では「気温はそこまで低くないのに、やけに寒く感じる」ことがあるよね。例えば気温が

0℃でも、風速が5m/sあると、体感温度は氷点下5℃近くまで下がってしまうんだ。WCI=700～900以上で作業がしづらいというデータがあり、気温0℃で風速5mがWCI=900程度だよ。これまで冬の寒さは「気合で耐える」と思われがちだったけど、最近はJIS規格でも寒冷ストレスの評価が重視されているんだ。これは冬の自転車移動などの日常生活でも同じ。外出時は厚着だけでなく、風を通さない「防風性」のある上着を選ぶことが重要だね。



セミナーご案内

ISO内部監査員養成セミナー 2026年度開催日程のお知らせ

当社で開催のISO内部監査員養成セミナーの2026年度日程が下記の通り確定しましたのでお知らせ致します。実務に沿った内容で、ISOを身近に感じられるようになったとの感想を頂いております。新任者教育等にぜひご利用下さいませ。なお、各企業様への出張セミナーも随時受け付けております。お問い合わせをお待ちしております。

開催日時 (各日 9:00～17:00)

開催日	ISO14001	2026年 5月 28日(木)・29日(金)
	ISO9001	2026年 9月 10日(木)・11日(金)
	ISO9001	2026年 11月 12日(木)・13日(金)
	参加費用(税抜)	1名様につき：36,000円 ※テキスト・資料・昼食・修了証書込

会場: 東海テクノ 本社 ★敷地内完全禁煙

※詳細は当社ホームページをご確認ください。

<https://www.tokai-techno.co.jp/product-service/hrd-consulting/iso-seminar/>

社員ブチコラム

水谷 隆義 (顧問)

学生時代からスポーツ好きで陸上競技やアメリカンフットボールと荒ぶる生活をしてきました。晩年はコーチをして過ごしていましたが、ひょんなことからマスターズ陸上の100m走をやることになって4年、ほぼ毎週2回の走練習と2回の筋トレを行っています。と、ここまででは勇ましい話ですが、走練習のあくる日は歩くのもぎこちないほど身体が痛く故障も日常茶飯事、でも横一線に並び、よーいどんで走る爽快感を求めて辞められません。想像してみてください、60代半ばの男がスタートイングブロックを蹴る姿…シュールでしょ(笑)



編集後記

新しい年が始まりました。2026年は60年に一度の「丙午(ひのえうま)」ですね。変化の多い年と言われますが、皆様はどのような目標を立てられましたでしょうか。今号で紹介した「WCI」の通り1月の三重県は「鈴鹿おろし」の風で数値以上に体が冷え込みます。現場でも日常でも「防風」を意識し、温かくしてお過ごしください。本年もよろしくお願ひ申し上げます。(みっちー)

